



令和3年度

港区立青南幼稚園 経営計画

園長 新山 裕之

園のビジョン、私たちの使命

青南を みんなの 心のふるさとに 一心の根っこを育てよう

幹や枝葉が立派な木は、地面の下に根っこがしっかりと育っています。青南幼稚園には、シンボルツリーである楓や桜をはじめ、多様な木々が幹太くたくましく枝葉を伸ばしています。その木々はまさに、将来の日本を背負って立つ子どもたちになぞらえられます。私たちは、子どもたちが個性豊かな立派な木々として育つために、その根っこを丁寧に育てます。

身近な人や自然との関わりから生まれる遊びや生活を通して、子どもたち一人一人に、人への信頼感を基盤とした主体的に生きる構えを育てます。今ある環境を生かしたり、改善したりして多様な動きを引き出す環境や指導を具体的に工夫して、遊びや生活を通して多様な経験ができるようにします。

昨年度、小さなコラム「みちくさ いたずら こどものじかん」で、身近な自然の移り変わりとおもひの育ちや子育てについて発信してきました。新型コロナウイルス感染症への難しい対応が続く中でも、目の前の状況を前向きに捉え、青南幼稚園の豊かな自然環境を生かした実践をすることができ、保育のおもしろさと更なる伸びしろを実感することもでき、子どもの成長に驚かされる一年でした。先の見通しがもちにくい時代ではありますが、未来を担う子どもたちは可能性に満ちていること、世界が共通の命題として目指す持続可能な社会づくりの土台となる構えは幼稚園で育つことも感じました。

子どもを育てる第一義的責任は家庭にあります。子育ては家庭だけではできません。子どもの育ちを長年見続けてきた幼児教育のプロだからこそ示すことができる、子どもの魅力、子どもとの関わり方や子育てのヒントなどについてホームページなどを積極的に活用して発信したり相談に乗ったりしていきます。地域の子育てのセンターとして保護者や地域と共に子どもの健やかな育ちを支えていきます。

令和3年度も、引き続き感染症対策を万全にし、関係の皆さんと丁寧に協議しながら、安全・安心を最優先に教育活動を進めていきます。どんな事態も、常に前向きに捉えていきたいと思えます。幼稚園に関わる全ての人たちの力を集め、子どもたちはもちろん、教職員、保護者にとっても心に深く刻まれ、その後の人生を支える「心のふるさと」となるような日々を共に創り出していきます。

1 目指す幼稚園像

- (1) 子どもとの応答的な関係を大切にし、
共に創り出す遊びや生活を通して、子どもが伸びる幼稚園
- (2) 遊びや生活の充実のために、
環境のもつ教育的価値を踏まえて、東京で一番手入れの行き届いた幼稚園
- (3) 南青山という地域性や施設環境、職員組織、学級編成などの特徴を生かし、
地域や園の強みに注目した遊びや生活を展開し、みんなが誇りと思える幼稚園
- (4) 異学年・地域・青山アカデミーの関わりを大切にし、
様々な人との多様な関わりを通して、育ち合うことができる幼稚園
- (5) 子育てを楽しみ、子どもにとっての憧れとなるために、
大人自身が自ら考え、いきいきと行動し、笑顔が響き合う幼稚園



教育目標

よく考えて遊ぶ 友達をたくさんつくる じょうぶな体をつくる 青南の子

よく考えて遊ぶ … 自発性と試行錯誤を大事にした「豊かな遊び」

幼児期にふさわしい遊びが展開できる環境を整え、そこに幼児が関わり生まれる遊びを共感的に受け止め、豊かな学びにつなげ、主体性を育む。

友達をたくさんつくる … 豊かな人間性につながる「人との関わり」

豊かな人間性につながる社会生活における望ましい習慣や態度、他人への思いやり、協同の精神や人権尊重の精神を育む。

じょうぶな体をつくる … 健康・体力につながる「生活習慣・運動」

健康や体力につながる基本的な生活習慣や進んで運動しようとする態度を養う。

2 中期的目標と方策……………

(1) 子どもも大人も、安心して最高のパフォーマンスが発揮できる環境づくり (環境による教育)

- ① 3年保育が始まって10年目。3階までの園舎になって6年目、子育てサポート保育が始まって5年目となった。また、この4年間に教育委員会とも連携し、園内外の改修工事を数多く実施し、安全で快適な環境整備を推進してきた。恵まれた環境を活用して、保育実践を更に充実させるとともに、安全・安心な遊びや生活のための動線の確保を進める。「がくぶり」を導入し、PCでの文書管理システムと合わせて、日々の連絡や園務などの効率を高め、教職員の働き方改革を進め、最高のパフォーマンスを発揮できる基盤をつくり上げる。
- ② 子どもが自ら環境に働き掛け、主体的に遊びや生活を創り出していくことができるよう、きれいで使いやすく片付けやすい保育環境(保育室、教材室・倉庫、職員室、ICT環境も含め)と豊かな自然環境を生かし、今ある環境に手を加えて、魅力を発揮させていく。
- ③ 保護者が肩の力を抜いて、子育てや幼稚園生活を楽しみ、自己実現をしながら子どもの育ちを喜び合う仲間となるために、双方向の情報発信や連携を工夫する。

(2) 確かな保育理念と主体性を育てる理論と実践力を備えた教師集団づくり (教育は人なり)

- ① 担任だけでなく、多くの教職員が保育に関わる環境の中で、全ての教職員が、子どもと教師との応答的なやり取りを大切にする構えと子どもの背にそっと手を添える援助とその理念を身に付ける。それぞれの役割を確実に果たすことで、遊びや生活を子どもたちと共に創り出していく実践を推進する。
- ② 日々の子どものやり取りや職務の遂行を通して、人として教師としての基本を学び、保育という営みの魅力とやりがいを実感し、感性を磨き、謙虚に学び続ける教員としての基本姿勢を確立する。
- ③ 乳幼児期から青年期までの発達を学び、長いものさしで幼稚園教育を考える視点をもつ。

(3) 青南幼稚園ならではの質の高い教育の創造 (地域の幼稚園)

- ① 南青山という独特な地理的・文化的な地域性、緑豊かな園庭など恵まれた自然環境などを生かした豊かな遊びや生活が展開できるよう創意工夫し、青南ならではの魅力を生かした教材開発をし、教育内容の更なる充実を図る。
- ② 季節の行事や自然との関わりを大切にする伝統を大切にする。
- ③ 日常的な異学年交流や生き物との関わりなどを通して、思いやり、感謝や憧れの気持ちを育てる。また、保護者や地域の方々との交流、保育園、小中学生など様々な人や物との関わりも、感染対策を工夫してできることは実施し、心に残る体験が積み重ねられるようにする。



3 今年度の取り組み目標と方策

(1) 環境に関わる取り組み (環境による教育)

① 環境についての基本姿勢の確立

保育室、園全体の醸し出す雰囲気、教師の服装や言動全てが、環境として幼児の育ちに大きな影響を及ぼすことを肝に銘じる。幼児と共に遊びや生活を創り出すためには、幼児と共に環境を整えることを徹底し、降園時には朝の状態に戻すことを基本とし、手入れの行き届いた環境を維持する。幼稚園教育の基本である環境による教育の重要性について、実践を通して体で理解し、指導の基本として確実に身に付ける。

新型コロナウイルス感染症対策については、区のガイドラインに則り、安全・安心を第一に対応していく。新しい生活様式として大人も子どももなすべきことは確実に実施し、その上で身の丈に合った、子どものペースを大事にした保育実践に務める。

- 降園時に朝の状態に戻すこと、整理整頓の確実な実行
 - ・保育室の環境整備は保育の第一歩という意識と日々の実践
- 環境に意図を込める習慣付け

② 園内研の成果を生かした指導の工夫

5歳児の遊戯室と園庭の使い方、園庭でのそれぞれの遊びの充実と異学年の関わりについては、コロナ禍での行事の工夫と絡めて、教師の意識改革が進み、子ども同士の育ちとして成果が見られた。安全かつ豊かな学びが展開できる環境と指導の工夫を積極的に実践し、反省評価を確実にを行い、指導計画に加筆修正していく。

- 園庭環境の使い方について具体的な実践の工夫と遊び場マップへの加筆修正
 - ・園庭の遊具の開発や幼児の実態に応じた加除修正
 - ・動的遊びと静的遊びの住み分けと全教職員による共有

③ 物的環境、文書管理の改善

保育指導に関するパフォーマンスを上げるために、不要物品の処分や使いやすく片付けやすい収納スペースの管理体制を確立する。文書や財務(提出書類の締切や途中経過)などが共有できるような、進行管理の見える化を工夫し、「がくぷり」やPCの活用で情報の共有とペーパーレス化を進め、働き方改革と効果的な園務の執行を図る。

- 園務分掌ごとの改善計画の提案と実施
 - ・「がくぷり」の活用によるペーパーレス化と文書管理・事務処理の効率化
 - ・職員室や教材室・倉庫などの整理整頓

④ 自然物の活用、栽培活動の計画的な実施

遊びの充実や情操面の育ちを目指し、季節の変化を身近に感じることができる自然環境に恵まれていることを生かし、用務主事や保護者の協力も得ながら、園庭の遊具や草花などを手入れし、豊かな環境と清潔さや安全性を保っていく。

- 自然と関わる活動の工夫(キャリアに応じた実践)と指導計画への加筆
 - ・自然に対する意識と行動改革(園だより、園長コラムを受けての行動改革)
 - ・定期的な教員による共同作業を通しての身近な自然への働き掛けに関わる実地研修



(2) 教師の指導力向上に関する取り組み（教育は人なり）

① 教師としての基本的な構えの習得

子どもは、教職員の何気ない言葉や立ち居振る舞いの全てを吸収していく。「大事なことは小さなことの中に宿っている」ことを肝に銘じ、教師も子どもも日々の生活の中で繰り返す活動の中で、「小さなことに心を留める」ことを具体的な行動（語先後礼、席を離れる際に椅子を引く、靴を丁寧に履き替える、脱いだ靴を揃えて仕舞うなど）を通して身に付け、基本的な構え、「心の根っこ」を育てる。

○「小さなことにも心を留める」ことの意味の自覚

- ・笑顔で相手を見て挨拶する、ゴミが落ちていたら拾う、靴の脱ぎ履きなど大人がモデルとなる
- ・公的な施設を一年間借りているという意識の徹底、物品や施設を大切に扱う構えを身に付ける

② 幼児理解の力量の向上と寄り添う心もちの醸成

遊びや幼児の心情の理解が保育の原点であることを再認識し、それを的確に捉え、表現する力量を高める。それと同時に、まず幼児の隣に寄り添う心もちが前提であることも、日本の幼児教育の父である倉橋惣三の言葉を定期的に紹介しながら、園の基本的な姿勢として定着させていく。そのことは園のビジョンと経営計画を理解し、自己申告やキャリアプランを活用し、1年間の具体的な目標と方策をもち、経験年数に応じて記録の取り方などを工夫し、確実な幼児理解に基づく保育実践を目指す。

○倉橋惣三の言葉の紹介（東京新聞「大図解:遊びは学びの原点」「子育て温故知新」などを活用）

○記録の取り方、書き方の工夫

③ 教師自身の主体性の発揮と学び合いによる指導力の向上

子どもの背にそっと手を添える援助と集団を動かす際の指導法の基礎（遊びの指導などでの教師の立ち位置、全体指導の際の指示や発話、教材の選択や提示の仕方など）を身に付け、子どもと教師との応答的なやり取りを大切にしながら、個々の育ちと学級集団の育ちを重ね合わせる学級経営を進めていく。チャレンジ精神を忘れず自由な発想で仕事に取り組み、常に教師として人として学び続ける。インプットはもちろん、アウトプットすることで学びの質を高めていく。

○日々のPDCAによる指導力の向上、自分事としてのカリキュラム・マネジメント

○得意分野の伸展を目指す積極的な教材研究とその成果の発表

- ・教材や作品については必ず3つは試作して提案する

○「幼児教育じほう」を使つての研修

- ・全員が自費購入し、論説や実践事例などを教材としての研修

④ 保育実践につながる園内研の充実

園内研では、「自然っておもしろい！－小さな発見から豊かな経験につなぐ保育の在り方－」をテーマに研究を推進する。昨年度の自然との関わりを通じた実践を追試したり、さらなる教材開発をしたりして、現在の環境や実態に合った活動や指導を工夫できるようにする。

○研究奨励園として、全学年での研究保育の実施

○ソニー教育財団・保育実践論文への応募

⑤ 足育推進者としての意識の定着

今年度も引き続き、学体連の足育調査協力園として、貸与された靴を活用する。丁寧に脱ぎ履きして体を動かす楽しさを味わえるように、知識を知り、足元からの健康について教職員がその重要性を意識して、日々の指導について再確認し、よりよい実践に結び付ける。



(3) 青南幼稚園ならではの教育の充実 (地域の幼稚園)

① 青南ならではの教材の開発

教師が地域を含めた幼稚園の歴史や地域の環境や園内の自然物への関心を高め、それを生かした教材を開発していく。幼稚園に関わる全ての人が、青南幼稚園や南青山という地域への愛着と誇りを高めていけるように発信をしていく。

- 青南幼稚園、南青山の魅力の再発見と活用、そして発信
 - ・ホームページやドキュメンテーションによる発信
 - ・キャリアに応じた実践、学級だよりや週案への記載等による意識化と発信

② 体を動かす活動の充実

青南小学校第2校庭での活動を「わくわくタイム」と称して位置付け、運動能力測定も実施する。それらをきっかけに、日々の遊びや生活の中で多様に体を動かす機会が増えるよう、園庭の活用に関しての実践研究と教材開発をし、体力の向上を図っていく。

- 体を動かす活動の積極的な実践と遊び場マップへの加筆

③ 様々な人との交流

新型コロナウイルス感染症対応で、対面の交流は難しいが、5月の保幼小合同研修会などをきっかけに、計画的に動画の撮影や視聴、手紙のやり取りなどを工夫して、早めに小中学校や保育園との関係づくりを進める。それを足掛かりに、コロナ禍でもできる交流の在り方を考え、それを指導計画に位置付けていく。それぞれの立場で、関連施設や地域の方々などと電話やメールなどで連絡をとる中で、個人的なつながりを構築する。

- コロナ禍における保育園、小中学校との交流の工夫
- 幼小の接続期についての共通理解の深化

④ PTA、保護者との連携

「がくぶり」やzoomなどのICTを活用し、コロナ禍でも安心してできる学級懇談会や保護者会、PTA活動の進め方を工夫する。保護者同士の情報交流の方法を工夫し、子育ての悩みなどを話せる仲間づくりを支援する。ひよこ組やPTA活動などを通して、地域の子育て仲間としての関係づくりを図り、安心して子育てに取り組めるようにする。

- 「がくぶり」やzoomなどの活用
- コロナ禍でもできるPTA活動の推進

⑤ 発信の工夫

全体保護者会や行事等で直接話し合う機会を補うものとして、ホームページや「がくぶり」での子どもの育ちや子育てのヒントなどの情報を提供し、幼児教育の重要性を分かりやすく発信する。子育ての不安を和らげ、子育てを楽しめるようにし、我が子だけでなく、全ての子どもを地域の子どもとして見守り、育てようとする大人の意識を積極的に醸成していく。

- 掲示板や「がくぶり」を活用した子どもの育ちや幼児教育への理解推進
 - ・東京新聞「大図解：遊びは学びの原点」や「子育て温故知新」の活用
- ホームページを活用した子育てに関する不安の払拭
 - ・小さなコラム「みちくさ いたずら こどものじかん」とブログによる発信